



# 海星学院男子 初の決勝



男子団体戦ダブルスで強烈なサーブを放つ海星学院・池田=花咲テニスコート

## 女子は4強で敗れる

団体戦は男女ともに24校が出場。海星学院は男子1回戦で準々決勝まで計4試合を全てストレート勝ち。初めての決勝に進んだ。

2回戦から出場した同女子は、初戦と準々決勝ともに快勝し4強入り。準決勝では北科大高と対戦したが、競り負けた。

「優勝以外考えてない。目標を一つにし、迎えた団体戦だったが、男女で明暗が分かれた。男子は道内ランキング1

位の主将・小笠原のシングルスを筆頭に危なげない戦いぶり。「目指しているのは日本一。そのためには全て圧勝しないといけない」と納得の表情。隣のコートで戦つ味方の試合展開を見て庄勝しないといけない」とエースの貫録を見せた。

「大きなヤマ場」(菊地竜平総監督)と話していた女子準々決勝で北星女子に逆転勝ちし迎えた準決勝。北科大高に敗れ、菊地総監督は「力は相手の方が上だ

ったがもつとやれた。わずかな差だった」と悔しがった。シングルス1としてチームをけん引した唯一の3年生志賀は「自分の試合が長引いてしまった。早く勝ち、相手にプレッシャーをかけられれば結果は違った」と責任を背負いこんだ。

試合後、選手6人が集まつたミーティングで志賀は「このメンバーで全国に行きたかった」と涙。目を腫らす後輩たちに「この悔しさを忘れないでほしい」と伝えた。ダブルスで佐々木(1年)とペアを組んだ松見(2年)は「自分の力を出したが技術が足りなかつた」。志賀は憧れの理想的な先輩だったといい「この気持ちを糧に、秋季大会は優勝したい」と目を赤くした。

初の決勝を戦つ男子のメンバーは負けた女子や、大会に来られず悔しい思いをしているメンバーもいる。絶対に負けられない」と、意気込んだ。(野田篤志)



女子団体戦で4強入りした海星学院ダブルスの松見(左)・佐々木ペア=花咲テニスコート

## 全道高校テニス選手権

【旭川】全国高校総合体育大会(インターハイ)予選となる第61回北海道テニス選手権大会は8日、花咲テニスコートで団体戦と個人戦が行われた。団体戦男子は室蘭支部代表の海星学院が初の決勝に進出、室蘭は2回戦に進めなかつた。

同女子の海星学院は準決勝で敗れた。

(野田篤志)